



號六十三第
月十年五十和昭
行發日五、回一月每
錢五金部一價定誌本
錢拾六金(共稅)年一

社内新體制確立

新しき歴史の奔流するところ、全世界をあげて高度國防國家の建設を今や民族生存上必須の條件たらしめた。我國が朝野一體となつて新體制結成に盛り上る熱情を傾倒し始めたのはかくの如き世界情勢の眞只中に處する我國としては蓋し當然の姿であり、最早更始一新なくしては支那事變の處理は云ふも更なり、世界危局の激流を乗切ることとは不可能に近いからである。この改革の奔流は我等日本人たるもの一人として例外を許されず、各々其の持場に於て國家新體制に即應すべき態勢を整へるべき緊要性に迫られるに至つたのである。ここに於てか我が同盟通信社は新體制下にあつて同盟に課せられたる「報道報國」の大使命を更に明確に再認識し、國家の新體制推進の一大原動力たるべき重大使命の完遂を期するため、その機能、人的要素の持つ力を正しく、最高度に發揮運用すべく、十月一日を以て職制の改革、陣容の整備刷新を斷行するに決し、同日午後四時本社八階講堂に全社員參集、古野社長より左の如く發表すると共に「小我を捨て、大同に就き、同盟全體主義の下に精神上、業務上の両面より結實精進すべき」旨の烈々たる訓辭あり、ここに更始一新を見たる新機構の下に新しき出發をなすこととなつた。

△同盟通信社新職制

第一章 總則

- 第一條 常務理事ハ社長ノ指定ニ依リ第四條ニ定ムル局ノ主査トシテ局務ヲ監理シ又ハ重要ナル社務ヲ掌理ス
第二條 外國通信社ト聯絡ヲ保ツ爲メ必要アリト認メタル場合ニハ當該外國通信社ノ職員ヲ本社ノ交換理事トナスコトヲ得
第三條 本社ニ參與若干名ヲ置クコトヲ得參與ハ重要ナル社務ノ審議又ハ處理ニ從事ス
第四條 本社ニ左ノ局ヲ置キ各局ニ局長ヲ置ク
一、總務局 四、調査局
二、編輯局 五、經濟局
三、通信局
第五條 局長ハ社長及主査常務理事ノ監督ノ下ニ當該局ノ事務ヲ掌理シ其ノ所管事務ニ付キ總局長、支社長、支局長、特派員及通信員ヲ指揮ス
第六條 本社各局ニ局長ヲ置クコトヲ得局長ハ局長ヲ補佐シ局長事故アルトキハ其ノ指示ニ依リ任務ヲ代行ス
本社各局ニ參事ヲ置クコトヲ得參事ハ局長ノ指示ニ從ヒ局務ニ從事ス
第七條 本社各局ニ部長ヲ置ク部長ハ局長ノ指示ヲ受ケ部務ヲ處理ス
部長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置ク

古野社長の訓辭
烈々同盟精神を説く



- 第二章 總務局
第八條 總務局ハ左ノ事務ヲ掌ル
一、人事ニ關スル事務
二、文書ニ關スル事務
コトヲ得

- 三、會計及出納ニ關スル事務
四、豫算決算ニ關スル事務
五、用度ニ關スル事務
六、「ニュース」ノ供給ニ關スル社員新聞社及外部トノ交渉及契約ニ關スル事務
七、他局ノ所管ニ關セサル事務
第九條 總務局ニ左ノ部ヲ置ク各部ノ事務分擔ハ社長ノ承認ヲ經テ主査常務理事之ヲ定ム

- 一、人事部 四、經理部
二、文書部 五、業務部
三、庶務部
第三章 編輯局
第十條 編輯局ハ左ノ事務ヲ掌ル
一、「ニュース」ノ蒐集、編輯及整理
二、「ニュース」ノ校閲印書ニ關スル事務
三、寫眞、製版ノ製作及其ノ供給ニ關スル事務
第十一條 編輯局ニ左ノ部ヲ置ク各部ノ事務分擔ハ社長ノ承認ヲ

- 經テ主査常務理事之ヲ定ム
一、整理部 五、體育部
二、査閲部 六、東亞部
三、政經部 七、外信部
四、社會部 八、寫眞部
第四章 通信局
第十二條 通信局ハ左ノ事務ヲ掌ル
一、「ニュース」ノ送受信
二、内外ニ對スル放送「ニュー

- ス」ノ編輯
三、英文通信ノ編輯
四、本社ニ於ケル通信ノ印刷及配送
五、「ニュース」ノ送受信施設ノ技術及運用ニ關スル事務
六、航空ニ關スル事務
第十三條 通信局ニ左ノ部ヲ置ク各部ノ事務分擔ハ社長ノ承認ヲ經テ主査常務理事之ヲ定ム
一、地方部 四、發送部
二、大陸部 五、航空部
三、海外部 六、技術部
第五章 調査局
第十四條 調査局ハ左ノ事務ヲ掌ル
一、内外情報ニ關スル事務
二、調査ニ關スル事務
三、特別通信ノ編輯及之ニ關スル事務
四、出版ニ關スル事務
第十五條 調査局ニ左ノ部ヲ置キ各部ノ事務分擔ハ社長ノ承認ヲ經テ主査常務理事之ヲ定ム
一、情報部 三、特信部
二、調査部 四、出版部
第六章 經濟局
第十六條 經濟局ハ左ノ事務ヲ掌ル
一、經濟通信及商況ノ蒐集、編輯及供給
二、經濟通信購讀者ニ關スル事務
第十七條 經濟局ニ左ノ部ヲ置キ各部ノ事務分擔ハ社長ノ承認ヲ經テ主査常務理事之ヲ定ム
一、內經部 三、外經部
二、亞經部 四、商通部
第七章 總局及支社
第十八條 海外及國內重要ノ地ニ總局又ハ支社ヲ置キ總局ニ總局長、支社長ヲ置ク
第十九條 總局長ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ總局ノ事務ヲ掌理シ且總局管内各支局ノ事務ヲ監督ス監督スヘキ支局名ハ別ニ社長ノ指定ス

- 總局長ハ本社各局長ノ所管事務ニ付テハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
第二十條 支社長ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支社ノ事務ヲ掌理シ本社各局長ノ所管事務ニ付テハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
第二十一條 總局長又ハ支社長ハ社長ノ承認ヲ經テ總局又ハ支社ニ部ヲ置キ事務ノ分擔ヲ爲サシムルコトヲ得
第二十二條 支社長ハ必要ニ依リ部長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第二十三條 支局長又ハ支局主任ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支局ノ事務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
必要ニ依リ支局長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第九章 海外支局
第二十四條 海外必要ノ地ニ支局ヲ置キ各支局長又ハ支局主任ヲ置ク
第二十五條 支局長又ハ支局主任ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支局ノ事務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
必要ニ依リ支局長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第十章 特派員及通信員
第二十六條 國內及海外必要ノ地ニ特派員又ハ通信員ヲ置ク特派員及通信員ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ當該地方ノ「ニュース」報道及特ニ命ゼラレタル社務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク、特定ノ事件又ハ事變ヲ報道スル爲メ當該地ニ臨時派遣セラレタル特派員亦之ニ準ス

- 總局長ハ本社各局長ノ所管事務ニ付テハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
第二十條 支社長ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支社ノ事務ヲ掌理シ本社各局長ノ所管事務ニ付テハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
第二十一條 總局長又ハ支社長ハ社長ノ承認ヲ經テ總局又ハ支社ニ部ヲ置キ事務ノ分擔ヲ爲サシムルコトヲ得
第二十二條 支社長ハ必要ニ依リ部長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第二十三條 支局長又ハ支局主任ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支局ノ事務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
必要ニ依リ支局長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第九章 海外支局
第二十四條 海外必要ノ地ニ支局ヲ置キ各支局長又ハ支局主任ヲ置ク
第二十五條 支局長又ハ支局主任ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支局ノ事務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
必要ニ依リ支局長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第十章 特派員及通信員
第二十六條 國內及海外必要ノ地ニ特派員又ハ通信員ヲ置ク特派員及通信員ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ當該地方ノ「ニュース」報道及特ニ命ゼラレタル社務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク、特定ノ事件又ハ事變ヲ報道スル爲メ當該地ニ臨時派遣セラレタル特派員亦之ニ準ス

- 總局長ハ本社各局長ノ所管事務ニ付テハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
第二十條 支社長ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支社ノ事務ヲ掌理シ本社各局長ノ所管事務ニ付テハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
第二十一條 總局長又ハ支社長ハ社長ノ承認ヲ經テ總局又ハ支社ニ部ヲ置キ事務ノ分擔ヲ爲サシムルコトヲ得
第二十二條 支社長ハ必要ニ依リ部長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第二十三條 支局長又ハ支局主任ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支局ノ事務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
必要ニ依リ支局長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第九章 海外支局
第二十四條 海外必要ノ地ニ支局ヲ置キ各支局長又ハ支局主任ヲ置ク
第二十五條 支局長又ハ支局主任ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支局ノ事務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
必要ニ依リ支局長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第十章 特派員及通信員
第二十六條 國內及海外必要ノ地ニ特派員又ハ通信員ヲ置ク特派員及通信員ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ當該地方ノ「ニュース」報道及特ニ命ゼラレタル社務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク、特定ノ事件又ハ事變ヲ報道スル爲メ當該地ニ臨時派遣セラレタル特派員亦之ニ準ス

同盟精神に生きよ

支社局長會議に於ける社長訓辭

この機會に何か非常な簡単な文句で判り切つて居ることながら同盟通信社の目的が何であるか、吾々の任務が何であるか、吾々の精神が何であるかと云ふことを確り把握して歸つて貰ひたいと考へたのでこの一兩日その文句を一寸思案して見た上、今こゝに來る時に書いたのですが字は拙いが面魂を讀んで貰ひたい。

報道報國 正確迅速 大同結盟

その意味は非常に簡單である。吾等の使命は報道報國にあり、吾等の任務は正確迅速にあり、吾等の精神は大同結盟にある。斯うした意味を現はしたいと云ふ考へに過ぎないのであります。何れも今迄云ひ古された文句ばかりで目新しいことではないのであります。が、目新しくないことを何度でも能く繰返して確りした吾々の面魂になる迄やつて行きたいと思ふのであります。

△報道報國

第一の報道報國。之は今更説明する迄もなく國內の輿論の基礎となり、國際間の批判の土臺となるものはニュースである。國家とか國際間とか云ふばかりでなく、各個人々々の活動の基礎をなすものも矢張り報道である。軍人はニュースを土臺に作戰を樹てるし、商賈人はニュースを土臺に商業を考へる。之が國家の生長の上に如何に重大な關係を持つてゐるかは今更云ふ迄もない。斯るが故に同盟

△正確迅速

第二の正確迅速。之はもう説明する迄もない。報道報國の目的を達成するために正確迅速でなくてはならぬことは云ふ迄もない。しかも同盟が、正確迅速なる報道を可能ならしめるため、その組織も全國民に直接ニュースを配付することを業務とするもののみ、即ち内外新聞社と放送協會とを構成分子としたこともこの目的、この任務を達成するためであつてあらゆる機會に説明した通りであります。そこで内外の事件が益々多岐多岐になつて來ると一口に正確迅速と云ひますが、實際業務に當る場合には幾多の困難が伴ふのであります。對外的報道の部面に於ても同盟のニュースは或は親愛的であるとか或は親獨的であるとか、云ふ苦情や泣事は屢々耳にする。國內の問題に於ても色々利害關係や感情の錯綜する場面に立つて敢然として正確公正なニュースを迅速に全國民に配付しやうとする任務は決してやさしいものではない。併しながらその苦しい仕事を敢然として正しきに即く決意を以てやつて行くことが吾々の麗しい任務なのである。そこでこの點について、一つ注意して置きたいことは兎角時局が段々進んで來るに連れて報道が制限され自由なる報道がなかく困難になること、

全國の同盟に職を守つて居られる諸君に今我が國は今有史以來の大戦争を敢行しつゝある時期であること云ふことを銘記して貰ひたいのであります。即ち吾々は報道戰の第一線に戰ふ將兵である。この戦時中であること云ふことが能く分れば、随分それぞれの立場から觀てはこんなものは出して宜いではないか、こんなものは發表してもよいではないかと云ふやうな問題ももつと制限されて明かに吾々の立場から觀ても、どうかと思はれるやうな不自由さを感じざるを得ない場面も屢々あるのであります。それは戰つてゐるのである、戦争中である、國民が、又同盟の同志が募僚として必要な獻言注意は精一杯やませうが今日の時局を擔當する責任の上に立つ人或はそれを決定して方針を定め命令を下した場合には斷然その方針に従つて協力すると云ふことが吾々の取らなければならぬ態度である。これは獨り同盟の問題にあらずして今日何時の間にか大事變の中に入つて來たかのやうな觀のある全國の大新聞に取つても同じ態度が必要であると思ふ。そこで随分困難な事情下にある中にとこまでも正確な事實を迅速に報道すると云ふ困難な任務の遂行にこの上とも一段の御奮闘を願ひたいと思ひます。

△大同結盟

第三の大同結盟。これも度々私が繰返してゐる言葉であります。が如何に目的が高遠で任務が重大であればとて結局これを果す者は人間である。即ち同盟同志三千の渾然一體を成した協力に俟たなければ如何に立派な組織も如何に立派な目的も到底その實現は不可能である。そこで小異を捨て大同に即き小我を去つて血盟に據ると云ふことを吾々同盟の精神としてこの同盟建設のため邁進して戴きたい。今頃同盟にも電通とか聯合とか云ふ馬鹿氣たことを考へたり、言つたりする者はあるまいがさう云ふ馬鹿者が居たら、時代遅れの骨董品としてつまみ出して戴きたい。苟もこの目的を持ち、この任務を負ふて闘ふ社員は一視同仁、

上海だより

中支總局 藤井信次郎

暮しにくい

一つの目的貫徹のために闘ふ同志とも限らぬ。併しながら必ず一視同仁、至公至平の精神を以て、この大同結盟の方向へと奮然に進んで行く固き覺悟を持つて居りますので私の注意の若し行き届かぬ所があつたならば遠慮なく喚起して戴きたい。(九月三日の社長訓辭速記の抜萃)

上海で物價が上り出すと一割とか二割とか云ふなまやさしいものではない。一ぺんに五割や十割半氣だ。僕が上海へ來て漸く一年、來滬當時七錢だつた十本入りのルビークイン——邦人が一番愛好する煙草——がいまでは二十錢、それは一圓四角から五十錢、天ぶらなどは一圓とられる。刺身が一きれ二十五錢、變な勘定だが實はかういふわけ、先日友人と簡單に中餐をたべに行つて刺身を注文したと思ひ給へ。この刺身が一人前一圓、ところが何と一人前が四きれしかない。つまり一切二十五錢といふ計算になる。白米が一升一圓二十錢、家が安い所で六疊一間三十圓、それも見つけ出したら非常な幸運見、最近の上海はまことに暮しにくい。

人々はよく川向ふ——つまり共同、佛兩租界——へ行くと品物が安く買へるといふ。併し在留邦人にとつて大きな陷阱がこゝにあるのだ。川向ふの消費階級といふのは支那人のブルジョアでなければ外人が主だ。ところが爲替の關係ではアメリカを例にとるとアメリカ十弗が法幣百七十弗から百八十弗に當る。だからアメリカのセラー等の鼻いきの荒いこと、日本一流會社員でも一寸足もとへもよつけない。従つて彼等の品物を買ふ場合五十弗や六十弗の物を買つても我々の二弗か三弗かにしか當らないから豪勢なものだ。實はこれが決して人ごとではない。我々が川向ふへ行つて法幣を使ふ場合ついアメリカ式錯覺に陥るのだ。四十弗や五十弗のものに、日本人街で五圓か六圓の物を買ふやうな心安さで手が出てしまふ。事實は法幣の十弗は軍票の約八圓だからいくらも違はない。川を渡つて虹口サイドへ歸るとハツと我に歸つてがっかりするといふ次第だ。日本人にとつて川向ふは大きな誘惑であり、大きな陷阱だ。

興亞奉公日に
ついで

毎月一日の興亞奉公が内地では益々嚴肅に行はれてゐるよし、眞に結構なことだ。最近支那でも在留邦人間に興亞奉公日の行はれてゐることには内地と同じだが、僕はこれについて些か疑問を持つてゐるのだ。僕の見解では、興亞奉公日は前線の辛苦を想つて銃後の人々が緊張を緩めない一つの運動だと思つてゐる。その點からして

内地ではこの日をもつと徹底せしめてもよいし、一月に一回でなく一週間に一回にしてもよいとさへ思つてゐる。併しこれを直ちに現地に適用することは餘りに形式主義に流れるものではなからうか。漢口の如きはこの日はそば屋迄休んでしまふ。こう云ふことは現地で不自由な、家庭も持たないで働いてゐる人にとっては非常に困る問題だ。而もこの日は日本人の店は駄目だからと云つて、あたかもよし、休みの女給を伴つて租界へのみに行くと云ふ不心得者續出する結果に至つては興亞奉公日の意義何處にありや。これは無論各人の罪で制度の罪ではないかも知れないが、すべて劃一的、形式的にやらうとする日本人指導者階級のやり方にも一半の罪はあると思ふ。現地では、殊に漢口等は硝煙こそ晴れてゐるが最前線といふべきだ。少くとも銃を持たない大陸の戦士が東亞新秩序の爲に戦つてゐる最前線だ。こゝでは前線の兵士と共にいぶきをしてゐるのだ。聖戦の緊張を緩めることが何であらう。敢て興亞奉公日によつて想起させるまでもないことだ。だから

最近渡航制限でいくらか少くなつたと思ふが、一時は所謂時局認識の支那旅行邦人が盛況を極めた。皇軍慰問、現地の實情視察と掲げた看板は眞に結構だが、よく見るとその下に、すべてに不自由の内地を飛び出して一寸命の洗濯といふ文字が見えるのは閉口する。高遠なる倫理論は先づあつけるとして旅行者の一寸

邦人旅行者に告ぐ

した行動が在留邦人に如何に影響してゐるかといふことは或は本人は御承知ないかも知れない。その一つが物價の値上りだ。旅行者にとつては日支親善のつもりか知れないか、支那商人に甘い顔をされるとサア大變、彼等は日本人與し安しとばかり矢鱈に値段を吹きかける。十錢の黄包車が二十錢になり、十五圓の靴が二十圓になる。旅行者にとつてはナンノ十錢や五圓かも知れないが、在留者の生活設計には大變な重大事だ。それから例の「旅の恥はかき捨て」心理だ。日本人とさへ見れば「〇〇寫眞いらんか」「〇〇實演見ないか」とボン引き見たいな支那人が寄つて来る。大てい日本

人旅行者がこれに飛びつくからだ。それは在留者にも罪の一半はある。得てして旅行者を案内する資格がないやうにまだ一度も旅行したことが無い。旅の恥はかき捨て心理は、どうせ誰も俺を知つちやあないんだから、といふことだから来てゐるんだがそれは内地における場合で、支那では何の何兵衛よりもつとハツキリした立派な名前「日本人」が物を言ふんだ。俺を知らないでは済まされぬ。邦人旅行者の方々よ、是非支那人に輕蔑されるやうなことはしないでくれ。

南海島より南寧へ

廣東支局 菊江榮一

おとなしいだの、さうした通り一ぺんの形容詞を通り越して、寧ろ痴呆的にすら見える彼等の顔つきを見てみると、暑さでやりきれない氣持を一層焦ら／＼させられる彼等島人の顔つきは以前から何事も無かつたかのやうな無表情さにも見える。新しくこの島に移住して来た日本人と何の屈托もなく混淆し生活してゐる。日本人の數も一千を突破したといふが、彼等の數もおびただしく殖えた。あちこちに逃避してゐたのが續々と復歸し新しい環境に順應してゆく。猫の額のやうな狭い町は人々の雑踏でいっぱい。夜ともなれば明るく電燈のともつた街中を若い支那人の男女が晴衣もかるやかに右往左往する。それが夜半一時二時頃までひつきりなしに續くので驚かす。私達も何の警戒心も持たず

にその雑踏の中に採まれながら平然と散歩することが出来た。電線には燕がびつしりとまつてゐる。その下は燕の糞で白い條を曳いてゐる。按摩の鈴の音が淡い旅愁をそよる。南支作戦の中樞地廣東が日毎に近代的繁榮の度を増してゆく中にも一脈の殺伐さの覆ひ難いのに對してこれはまた何となくひびいた姿であらうか。然しながらかうした平和な營みの影には現地陸海軍の揉みない努力が續けられてゐる。新しい抱負を言ふんだ。俺を知らないでは済まされぬ。邦人旅行者の方々よ、是非支那人に輕蔑されるやうなことはしないでくれ。この力強い抱負經綸の片鱗を窺ふことが出来た。青く晴れ渡つた空に海軍機が連日猛訓練を續けてゐる。一種悲壯な感じを帯びた抑揚のある爆音を空一ぱいに響かせながら秘術を盡して横轉反轉を繰返してゐる。私は〇〇基地をよく訪れた。こゝの先任參謀菊岡中佐は同氏の前任地ドイツの同盟支局とも顔馴染で、私の仕事の上にもいろいろ便宜をはかつてくれた。一ヶ月の豫定が二ヶ月に延び、六月末私は廣東支局から急遽歸任命令に接し、同月二十八日廣東に飛んだが、中一日おいて三十日南寧に向つた。陸路この土地に足を踏み入れるのはこれが始めてだ。欽縣からトラックで七、八時間ぶつ飛ばす。嘗ては難行軍を續けたであらう欽寧道も今は坦々たる車道に變つてゐる。なだらかな丘陵を持つた緑の廣野が果てしなく續いてゐる。牧場カゴルフ場には持つたこのところだ。吳村墟の附近だつたと思ふ。突如前面に奇怪な岩山が入道雲のやうに現れた。巨大な岩塊が道路の兩側におつかぶるやうに屹立してゐる。風成岩らしい。岩肌にはいたるところ

同盟育成會設立

豫て岩永前社長の基金により設立認可申請中であつた財團法人同盟育成會は昭和十五年八月十六日附を以て主務官廳より設立許可の指令があつたので感々その活動を開始する事となり役員も次の如く確定した。

- 理事長 島山敏行
- 理事 塚本義隆、鷹嘴 詩
- 杉田才一
- (常務) 粕谷源藏
- 監事 石部幸式、上村藤吉
- 評議員 古野伊之助、島山敏行
- 鷹嘴 詩、松本重治

本會の目的は新聞通信事業に従事する者の訓育に任じ智徳の涵養を計るにあつて差し當つての事業を計るにあつて差し當つての事業は麻布區市兵衛町一ノ一にある同盟學寮の經營である。學寮は青少年従業員の心身の鍛錬人格の陶冶を計る所謂修養道場であるが、之れと關聯して同盟講習所も本會の運営の下に置き新時代の青少年育成に當ることゝなつた。

海口支局長中井君の留守を承つて海南島に渡つたのが四月末、昨年十一月の南寧攻略で海軍側に従軍した折この島に立寄つたがその時から五ヶ月ぶり、初めから數へて三度目の訪問である。相變らず暑い。海口の街の模様は以前より大分活氣づいて來てゐるやうだ。男より女がよく働く。水汲み、車挽き、荷擔ぎなどの肉體労働は殆ど女がやつてゐる。男はほんやり店先にすわつてゐるか、何かこつ／＼家内労働をやつてゐる。私は支局の下の薄暗い屋内で一日中油汗を裸身に浮べて大きな材木に鋸をひいてゐる二人の支那人の黒ずんだ佛像のやうな表情に心を惹かれた。それは長い間の壓政、苛敵謀求に度げられてきた島人の何もかも誇らめきつた奴隸的な表情である。――從順だの、

その夜、この町の唯一の支那料理屋で、歡迎の御馳走になつた。支那料理といつても實にお粗末なものであるが、今の南寧ではこれは最上級のものゝ一つで、前線生活の我々にとつてはこの上もない御馳走だつた。この日軍司令部で三年ぶりの邂逅をした我社の中島曹長もこの席に列なり、屈托のない談笑裡に大いに皿をつつき、南寧の第一夜を過した。數日雨が續いたと思つたら、今度は灼きつけるやうな炎天續きだ。マグネシウムの光を思はせるやうな白日が容赦なく照りつけ

る。直射百三十度から四十度だ。ちつとしてゐたらやりきれない。だからあちこち飛廻る——かうして仕事をやつてゐる時は、暑さもしのげるやうだし、時間の経つのも早い。晩飯が済むと、微かな風を求めて屋上の物干臺に上る。そこで支局内の入氣物の猿公と、生れて間もないシネパードをからかつてみたり、耳のキン／＼するやうなレコードをかけて時を過す。時折、海軍航空隊から映畫招待の電話がかゝつてくる。映畫といつても、二、三年前の畫面のちら／＼するやうな代物を露天でやるのだ。それが兵隊は勿論、私達にとつても唯一のすつきりした慰安なのだ。

陸海軍機が連日各地を爆撃する。佛印をはじめ、寧波、香港、廣州灣、其他南支沿岸各地を封鎖された今日、支那側としてはこれまでの集積物資の輸送に馬力をかけるより他に道はない。桂林、貴陽が西南支那に於ける奥地輸送の二大據點として、東は遠く寧波よりの浙東ルート、西は廣西省を走る新國防ルートを利用し、奥地へ／＼と運び去られる物資は實におびたゞしい數に上つてゐる。之等ルート沿線の各要衝に、如何におびたゞしい軍需物資が集積隠匿され、隨時我方の目を掠めて運搬されつゝあるかは、陸海軍機による屢次の報告が之を明らかに示してゐる。香港及び佛印の兩國境方面は、今や我が陸軍部隊の鐵壁の布陣によつて完全に外側より遮斷され、沿岸の援務物資輸送據點も、海軍部隊により次々に封鎖され、茲に航空部隊は陸海軍密なる連繫の下に、連日灼熱の南風を截つて西南の空を縦横に飛び、封鎖圈内の集積物資を風潰しに爆砕し、今尙之れを連續してゐる。去る六月末の英支國境作戦、及び佛印國境

に於ける各要衝の占領以後、西南支那の戰鬥舞臺は空軍によつて獨占されたかの觀がある。八月二十四日決行された陸軍機による桂林空襲は、陸軍航空隊としてはそのスケールに於て未曾有のものであつたが、以後連續數日に互つて桂林及びその周邊地區に對し大規模の爆撃を敢行し、多大の戦果を収めた。貴陽が相次ぐ海軍機の攻撃に大恐慌を來してゐた矢先として、この二大奥地輸送ポイントに對する我が空軍の脅威は、重慶側にも相當強い衝擊を與へたことと思はれる。私はこゝでもよく〇〇基地を訪れた。むし／＼する埃ッぽい支局を飛び出してサイドカーを疾驅させる氣持は何とも言へなかつた。前の晩、我々と一緒に支局で罪のない世間話や冗談に夜を過した若い將校連が、今日は大空の彼方へまつ／＼に挑戦して行く。佛印國境方面の空氣は、微妙な國際關係を反映して容易に逆路し難いものがあり、緊迫した空氣の中に各社それ／＼有事の場合に處すべき陣容整備に餘念が無かつたが、我が同盟としても一應出先の陣容整備を終へたので、私は各特派員とも打合せを済ませ、廣東基地を補充すべく南寧を引揚げることにした。途中海口支局での連絡打合せを遂げるため、海軍航空隊の好意で、八月二日海軍機で海口に飛び、前よりも一層黒く瘠せた感じの中井支局長と久瀧を殺し、同日、海口を後に、海南島、南寧と前後百日の長旅を終へて眞夏の廣東に久方ぶりの足跡を印したのだつた。(八月二十七日記)

互助會報告 (九月)

出生
永峰 正樹(本社亞細部)出生
伊藤 次雄(新潟支局)長子

Table with columns for names and titles of members, including 任健, 齋藤, 高谷, etc.

同盟人事 (八、二二一〇、一)
社内新機構の確立に伴ふ辭令は十月一日附を以て左の如く發表された。

Table with columns for titles and names of staff members, including 總務局長, 庶務部長, etc.

Table with columns for titles and names of staff members, including 局長, 部長, etc.

Table with columns for titles and names of staff members, including 局長, 部長, etc.

Table with columns for titles and names of staff members, including 局長, 部長, etc.

Table with columns for titles and names of staff members, including 局長, 部長, etc.